

令和7年度入学生 K・M さん

（１）税理士の道を目指した理由

実家が会社を営んでおり、税理士という職業は身近な存在でした。経営者をサポートする仕事に魅力を感じていましたが、新卒時は地元企業に就職し、ガス会社などで働いていました。しかし、30歳を目前にして今後の人生を考えた際、やはり本当にやりたかったことに挑戦しようと思い、今の税理士事務所に入所して税理士を目指すことにしました。

（２）平成国際大学大学院を選んだ理由

一番の理由は、先生方の面倒見が非常に良いと評判だったことです。また、職場が大宮なので通いやすく、平日の夜間と土曜日に授業がある時間割も仕事と両立する上で決め手となりました。さらに、職場にこの大学院のOBが複数名いて、実際の様子を聞いたことも安心感に繋がりました。

（３）研究テーマ

「消費税の課税要件としての対価性の判断基準」をテーマにしています。消費税の課税対象を判断する重要な要素ですが、明確な定義がなく解釈が分かれることも多いため、自分なりの解釈を導き出したいと考えています。実務に直結する内容ではありませんが、大学院という場だからこそ、あえて興味のある分野を深く研究したいと思っています。

（４）学びの中で、最も印象に残っているエピソード

判例発表などの講義を通じて、先生や他の学生から自分にはなかった視点や意見をもらえることが非常に勉強になっています。一人で研究していると見方が一方向になりがちですが、多様な意見に触れることで、物事を多角的に捉える力が養われていると感じます。

（５）今後の目標

A5 まずは大学院修了後も税理士試験勉強を続け、残りの科目に合格して税理士登録をすることです。その先は、時代の変化に合わせて、単なる記帳や申告書の作成だけでなく、「お客様に選ばれる税理士」になれるようにと考えています。

（６）受験生へ一言

大学院で学ぶ法律や判例の解釈能力は、実務において非常に大きな武器になります。実務の中で法律の深い解釈を学ぶ機会は意外と少ないため、ここでの経験は最終的にお客様のためにもなると確信しています。この大学院は本当に面倒見が良いので、ぜひ入学を検討してみてください。